### memlookup

インメモリ（in-memory）ルックアップテーブルの作成、削除、またはルックアップテーブル内の全データの参照を行います。

このコマンドは非推奨（deprecation）予定です。今後はlookupコマンドを利用できるよう、システム構成の変更を行ってください。

#### 構文

（パイプで受け取ったデータを利用して）インメモリ・ルックアップテーブルを作成するには、以下のように指定します。

memlookup op=build name=TABLE key=KEY\_FIELD FIELD, ...

インメモリ・ルックアップテーブルを削除するには、以下のように指定します。

memlookup op=drop name=TABLE

インメモリ・ルックアップテーブルのメタデータを参照したり、特定のインメモリ・ルックアップテーブルの全レコードを参照するには、以下のように指定します。

memlookup [op=list] [name=TABLE]

必須パラメータ

**op={build|drop|list}**

実行する操作（operation）を指定します（デフォルト: list）。

1. build: クエリが完了するまで、入力として受け取ったデータを用いてルックアップテーブルを作成（build）します。
2. drop: nameオプションで指定したルックアップテーブルを削除します。
3. list: nameオプションで指定したルックアップテーブルを参照します。memlookupで作成されていないルックアップテーブルの場合、クエリは失敗します。memlookupコマンドをオプションなしで実行した場合、op=listオプションを指定した場合と同じ動作となります。

**name=TABLE**

opオプションで指定した操作の対象となるテーブル名を指定します。op=listの場合、インメモリ・ルックアップテーブルを指定しなければ、すべてのインメモリ・ルックアップテーブルの一覧を表示します。このとき表示される情報は以下の通りです：**name**（ルックアップ名）、**key**（キー・フィールド名）、**size**（ルックアップテーブルのレコード数）

**key=KEY\_FIELD**

op=build時に使用するオプションで、キーとなるフィールドを指定します。

**FIELD, ...**

op=build時に、テーブルを構成するフィールドのリストを指定します。区切り文字はカンマ（,）です。

#### 使用例

クエリを利用したマッピングテーブルの作成

status、desc1、desc2カラムを持つCSVファイルから、statusカラムをキーとし、desc1およびdesc2カラムを出力とするhttp\_statusインメモリ・ルックアップテーブルを作成します。

csvfile http\_status.csv | memlookup op=build name=http\_status key=status desc1, desc2

ルックアップテーブル一覧の参照

memlookupで作成されたルックアップテーブル情報を確認できます。返される情報は、ルックアップテーブル名、キー・カラム、全レコード数です。

memlookup

上記コマンドは、次のコマンドと同じ結果となります。

memlookup op=list

特定ルックアップテーブルの全レコード参照

インメモリ・ルックアップテーブル名を指定することで、そのテーブルの全レコードを参照できます。

memlookup name=http\_status

上記コマンドは、次のコマンドと同じ結果となります。

memlookup op=list name=http\_status

インメモリ・ルックアップテーブルの削除

オペレーション（op）オプション値にdropを指定し、該当するルックアップテーブルを削除します。ルックアップ名を指定しない場合はエラーとなります。

memlookup op=drop name=http\_status